

— 発達障害等の子どもたちへの —  
**放課後等デイサービス**における  
**キャリア教育プログラム**の**推進**



# はじめに

2016年度の放課後等デイサービス事業所の数は全国で約1万か所であり、1カ月の利用者数は約15万5千人となっています。事業所数は4年間で約2.4倍に急増しています（厚生労働省，2017：平成28年社会福祉施設等調査の概況）。今後、発達障害のある児童生徒の「特別な場での分かりやすい学び」に対するニーズはますます高まると推測されます。

私たちはこれまで、発達障害者と企業をつなぐ架け橋となることを願い、15年間、発達障害者のためのキャリア教育に携わってきました。こうした中、より効果的なキャリア教育の在り方を考えるにあたり、学童期から自然な形で必要な学びを提供することができる「放課後等デイサービス」に着目し、放課後等デイサービス版キャリア教育プログラムの開発をすすめてきました。本冊子は、生活場面の中でのキャリア教育のヒントを、分かりやすくお伝えできるように編集しています。そのため、家庭教育でも応用していただけます。

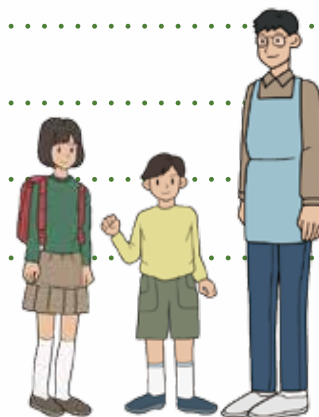
早期から系統的かつ継続的な形で、身近な地域で、よりよい支援につながることを願い、ここにプログラムの提案をさせていただきます。

この提案が発達障害者の就労・自立に少しでも役立ちましたら幸いです。

NPO法人 Wing PRO 新堀 和子

## 目次

●はじめに	1
●放課後等デイサービスにおけるキャリア教育の重要性	2
●「発達段階別」キャリア教育段階表	3
●「日常場面」でのキャリア教育の実践例	5
●「休日・長期休暇」でのキャリア教育の実践例	9
●キャリア教育の実践をサポートしてくれる「地域資源」	17
●おわりに	22



## 放課後等デイサービスにおける **キャリア教育の重要性**

近年、障害の有無に関わらず、児童・生徒の生きる力を育成するためのキャリア教育の重要性が指摘されています。

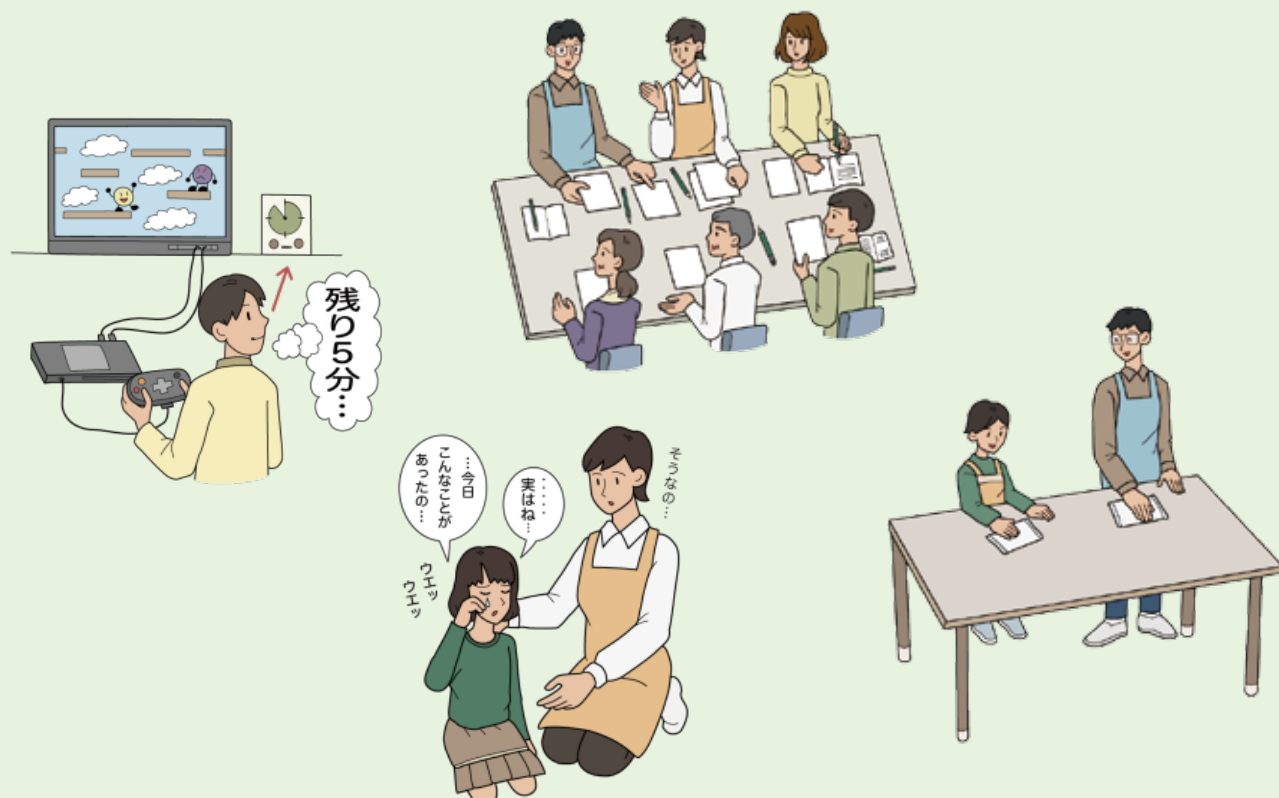
キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育（中央教育審議会，2011：今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について〔答申〕）」のことです。特に障害のある子どもの場合、将来の社会参加や自立を見すえた早期からのキャリア教育が重要です。

なぜならば、「障害があることで、社会的・職業的自立に必要な、多様な体験を積む機会や、自己肯定感を育てる機会を十分に得にくい可能性がある」こと、また、「自分の障害を理解し、受け入れた上で、よりよい進路選択を考えていくために、より多くの時間を必要とする」ことが考えられるためです。

キャリア教育は、どのような放課後等デイサービスにおいても、職員が意識することで、これまでの支援の延長線上で行うことができます。

障害のある子どもが多くを過ごす放課後等デイサービスで、キャリア教育を意識して支援に取り組んでいただくことで、また、学校や家庭とその内容を共有していただくことで、支援の相乗効果が期待されます。

これにより、障害のある子どもが将来大人になった際に、よりスムーズに社会参加・自立をし、質の高い生活を送ることにつながっていくのです。



# 「発達段階別」キャリア教育段階表



放課後等デイサービスでのキャリア教育の取組としては、たとえば、下表に示したような「仕事理解」や「自己理解」を深める取組が考えられます。

発達段階	小学生 「進路選択の基盤形成」の時期	中学生 「進路の暫定的な選択」の時期
	【体験的理解】 模擬的な仕事体験／職場見学	【体験的理解】 模擬的な仕事体験／職場体験
仕事理解について	<b>職業観・勤労観の形成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 集団活動の中で自分の役割が分かる</li> <li>● 限られたお金でほしいものを買いたいと思える</li> <li>● 世の中には色々な仕事があることが分かる</li> </ul>	<b>【働くことの必要性・意義／職業人の生活像】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 集団活動の中で自分の役割を見つけようとする</li> <li>● お金を貯めてほしいものを買いたいと思える</li> <li>● 色々な職業人の生活サイクルを知る</li> </ul>
	<b>働く上で必要な対人面のマナー・スキルの理解・習得</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 挨拶を返すことができる</li> <li>● 丁寧な言葉をつかうことができる</li> <li>● 自分の気持ちや考えを伝えようとすることができる</li> <li>● 相手の話をささげずに聞くことができる</li> </ul>	<b>【挨拶／言葉づかい／話し方・聞き方／他者の気持ちの理解】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分から挨拶をすることができる</li> <li>● 丁寧な言葉を自分からつかうことができる</li> <li>● 自分の主張を相手に伝える言葉で伝えることができる</li> <li>● 相手の話を聞こうとすることができる</li> </ul>
	<b>働く上で必要な業務面のマナー・スキルの理解・習得</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 困ったときに助けを求められることができる</li> <li>● 質問をすることができる</li> <li>● 学校の連絡帳を書くことの重要性が分かる</li> <li>● 時間に合わせて行動できる</li> </ul>	<b>【相談力／質問力／メモをとる力／時間管理】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 困ったときに状況を説明し相談することができる</li> <li>● 分からないときに質問することができる</li> <li>● メモをとることの重要性が分かる</li> <li>● 時間の配分を考えて行動できる</li> </ul>
	<b>働く上で必要な生活面のマナー・スキルの理解・習得</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● お金を払ってほしいものを買うことができる</li> <li>● 決まった時間に起床・就寝ができる</li> <li>● 自分の体調に気づくことができる</li> <li>● 身体の清潔を意識することができる</li> <li>● 公共の乗り物に一人で乗ることができる</li> <li>● 余暇の過ごし方を自分で決めることができる</li> </ul>	<b>【金銭管理／生活リズム／体調管理／清潔・身だしなみ／公共交通機関】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 配分を考えてお金をつかうことができる</li> <li>● 決まった時間に自分で起床・就寝ができる</li> <li>● 体調に合わせて休息できる</li> <li>● 清潔な身だしなみを心がけることができる</li> <li>● 目的地まで自分で調べていくことができる</li> <li>● 余暇を通して気分転換することができる</li> </ul>
	<b>自分の得意・不得意の理解</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の得意なことや、取り組んでいて楽しいと感じるものが分かる</li> <li>● 自分が不得意なこと、取り組んでいて苦しいと感じるものが分かる</li> </ul>	<b>【得意なこと・不得意なこと／楽しいこと・避けたいこと／他者への】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 得意なこと、楽しいと感じるものを伸ばしたり、増やしたりする</li> <li>● 不得意ではあるが工夫をすればできることを増やしたり、苦しいときは他者にサポートをお願いしたりする</li> </ul>
	<b>自分の障害特性の理解</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の特性（告知している場合は障害の理解と併せて）を知る</li> <li>● 心が乱れたときに、自分が落ち着く方法が分かる</li> </ul>	<b>【特性理解／障害理解／クールダウンの方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 他者との比較を通し、自分の特性について理解を深める</li> <li>● 心が乱れたときに、自分の気持ちを切り替える方法が分かる</li> </ul>
<b>自分に合った仕事内容・働き方の理解</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分が将来やってみたい仕事を見つける</li> <li>● 放デイや学校、家庭で、自分が得意なことやできることを活かしてお手伝いをする経験を積む</li> </ul>	<b>【現実的な職業選択／無理のない働き方／自己決定】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分が将来やってみたい仕事について、その具体的な内容や、その仕事に就くために必要な資格、求められる力等について調べ、理解を深める</li> <li>● 放デイや学校、家庭で、自分が得意なことやできることを活かして自分からお手伝いをすることができる</li> </ul>	
自己理解について		

次ページからは、これらのキャリア教育の取組のポイントを、実際の現場の中で、どのように取り入れていけばよいかについて、「日常場面」「休日・長期休暇場面」を題材に考えていきます。



\* ♪ は取組のポイント

## 高校生

「進路の現実的な選択」の時期



### 【体験的理解】 就業体験

- 社会の構成員として自分の力を発揮したいと思える
- 自分の生活を豊かにするために働きたいと思える
- 自分がつきたい職業生活のイメージをもてる

- 場に応じた挨拶をすることができる
- 場に応じた言葉づかいをすることができる
- 自分の主張を適切な方法で伝えることができる
- 相手の話を適切な態度で聞くことができる

- 困ったときなどに、状況説明をして相談しつつ、自分で解決策を考えることができる
- 状況に合わせて質問をすることができる
- 大事なことについてメモをとることができる
- 自分が立てたスケジュールに合わせて行動できる

### 関の利用／余暇〈気分転換〉】

- 計画的にお金をつかうことができる
- 予定に合わせて起床・就寝ができる
- 予定に合わせて休息できる
- 場や季節に応じた身だしなみができる
- 交通機関のトラブルに臨機応変に対応できる
- 予定に合わせて余暇を楽しみ気分転換することができる

### SOS／自己効力感／他者への信頼感】

- 得意なことが就労につながる可能性があるか、趣味として楽しんでいくとよいものであるかが分かる
- 不得意なことに対し、自分で工夫し取り組んでいけるものと、他者にサポートをお願いするとよいものが分かる

- 自分の特性について説明することができる

- 心が乱れたときに、自分の気持ちを切り替える方法を自分でとることができる

- 自分がやってみたい仕事と、実際にできそうな仕事の接点（例：人と接する仕事、電車に関係する仕事）を見つけ、現実的な仕事選択を考えていくことができる
- 自分が得意なことやできることを活かし、無理をせずに働きつけることができる方法について考えていくことができる



## 自由時間の過ごし方

放課後等デイサービスでは、発達障害等の子どもが興味を持ちそうな遊具をそろえているところも多くあります。このため、子どもたちが自分のペースで、もの作りや運動、ゲームや楽器演奏など様々な体験をし、楽しみながら自分が得意なもの、好きなものを見つけていける場所でもあります。教室では落ち着かない子が、自分の好きな作業に長時間集中する姿を見せたり、細かな作業や絵画など一定の分野で秀でた力を見せたりすることもあります。

こうした力を大人に誉められたり、仲間に認められたりする経験をするのは、自信につながっていくと同時に、自由な活動の中で自分の得意・不得意の理解を深めることにもつながります。また、余暇（自分が心から楽しめたり、心が落ち着かないときに気持ちを切り替えられたりする方法）を見つける上でも重要です。

### キャリア教育のための工夫例

#### 職員とおしゃべりを楽しむ

- 信頼できる職員に学校や家庭で楽しかったこと、困ったことを聞いてもらう

Point → 話し方 相談力 他者への信頼感

#### 工作や遊具を楽しむ

- その日やりたいことを自分で決め、必要なものを職員に依頼して出してもらう（それが将来、余暇を楽しむことにつながる）

Point → 楽しいこと 言葉づかい 話し方

- 自分では難しい部分を手伝ってもらいながら工作物を完成させ、達成経験を得る

Point → 他者への信頼感 他者へのSOS



#### 仲間とゲーム（トランプ・ボードゲーム）を楽しむ

～ゲームに参加するには、ルールを教えてもらってよく理解したり、相手の戦略を予想したりしなければならない～

- 相手の話をよく聞き、分からないときは質問をする

Point → 聞き方 質問力

- 相手の立場に立ってものを考える

Point → 他者の気持ちの理解

## ワンポイントアドバイス

学校での不愉快な思いを抱えたまま来所した子どもはストレスを放課後等デイサービスで発散しがちですが、トラブルを起こすことで、本人も周囲もダメージを受けてしまいます。そのため「一人で好きな作業に集中する」「話を聞いてもらう」など自分のクールダウン方法をいくつか見つけられるとよいでしょう。

自由時間は、アナログゲームを通して対人面のマナー・スキル習得を行うこともできますし、子どもたちが大好きなテレビゲームも、「持ち時間を決めて」「時間が来たなら楽しくても次に待つ人に渡す」といったようにルールを決めることで、時間と順番を守ることを身につける学習機会になります。



## 発達段階別指導のポイント

小

子ども同士で遊べない子に対しては、大人と1対1で簡単なルールのゲームや遊具、DIY（工作等）を楽しむ  
悲しかったことを大人に聞いてもらって気分が落ち着く経験をする

中

自分が理解しているゲームのルールや遊具の使い方を仲間に教えることができる  
自分都合ではなく相手の状況を見て依頼やSOSを出すことができる

高

複数人でゲームをするときに、大人が参加しなくても、自分が大人の代わりになって皆に気を配る立場に立てる



## 地域との連携のポイント



地域には、活動的なシニア世代が結成しているサークルが結構あるものです。そうした、日中に地域で活動している人たちに来てもらって、子どもたちと日常的に触れ合う機会を作るのは、双方に楽しみが生まれて大変有効です。声をかければきっと放課後等デイサービスにも足を運んでくれて、子どもたちとのふれあいを楽しんでもくれるでしょう。

日常の自由時間には、たとえばDIY（工作等）、折り紙、お手玉、絵本の読み聞かせ、将棋、囲碁などのサークルの人たちに来てもらってよいでしょう。また、大学のある地域だと、学内のボランティアサークルの学生に来てもらって、遊戯やゲームと一緒に遊んだり、楽しくおしゃべりしたり、パソコンの操作を教えてもらってもいいでしょう。

## ワンポイントアドバイス

「自分で調べて、知識を身につける」ということは、仕事を覚える際の基本となります。

そのため、学校の宿題に取り組む機会のほか、子どもの特性に合った調べ学習（電車の仕組み、昆虫の生態、オリンピックの開催地など）等の機会を提供することも有効です。職員とともにパソコンや図鑑で調べていく中で、子どもたちは「調べ方」を学んだり、自然と「漢字」や「言葉」を覚えたりし、基礎的な学力の向上にもつながるでしょう。



## 発達段階別指導のポイント

小

宿題の時間を守る  
苦手な課題も助けてもらいながら取り組む

中

得意な分野を伸ばしながら自分の学習の力を把握し、進路選択につなげていく

高

将来希望する仕事に就くために必要な資格等をより深く調べたり、希望する学校に進学するために必要となる勉強を知り、取り組む



## 地域との連携のポイント

学習は、実践例①「自由時間の過ごし方」で例示している地域の人たちや大学生に協力してもらって、見ていただくのもよいでしょう。

もし、大学生の中に、教員を目指している人がいれば、教育現場に入る前に障害のある子どもに対する特別支援を経験できますので、学生にとっても貴重な学びとなり、学び合いの効果が期待できます。





## 「休日・長期休暇」でのキャリア教育の実践例①

### 自己紹介カード作り

新しい仲間が増えたときなどに自己紹介の時間を設けているところは多くあります。また、自己紹介のカードを室内に掲示しているところもあります。

カードには、氏名、生年月日だけでなく、好き・嫌い、得意・不得意等を箇条書きで書き込めるようにすると、自分の特性を整理することにつながるでしょう。好き・嫌いは自分で認識しやすいですが、得意・不得意は客観的に認識できないでいることが多くあります。

### 👉 キャリア教育のための工夫例

#### 自己紹介カードを作ってみる

##### 自分の特性に気づく

- 「作業がとても丁寧」「作業が速いけどちょっと雑」「時間やルールをいつも守れている」「夢中になりすぎて時間を忘れてしまう」「話を聞くのは苦手だけど、パソコンや本を読むとよく理解できる」など、本人があまり意識しないことも職員がアドバイスしながら一緒にカードを作り上げていく



Point

得意なこと・不得意なこと

楽しいこと・避けたいこと

##### 自分の特性を受け入れる

- 嫌いなこと・不得意なことへの対応方法を考える。「突然の大きな音」「○○のにおい」「体に触られること」など特性からくるものを挙げた場合は、自分が悪いのではない、皆に知ってもらえばいいと伝えていく



Point

クールダウンの方法

特性理解

障害理解

#### 自己紹介カードを使ってみる

##### 自己紹介カードをもとに他者に自分について発表し、他者の発表を聞く

- 決められた時間内に伝わりやすい表現で自分について説明する。また、他者の説明を聞いて理解する
- 嫌いなこと・不得意なことを伝えておくことでトラブルを避けることができる



Point

話し方・聞き方

他者の気持ちの理解

他者へのSOS

## ワンポイントアドバイス

自己紹介カードは時折更新すると特性の変化の気づきになります。

自分の特性を箇条書きにして決められたひな型に書き入れることや、皆の前で発表する経験は、将来の履歴書記入（自己PR）や就職面接で役に立つはずです。

↑  
将来書くことになる履歴書  
(得意・不得意が分からないと自己PRが書けない…)



## 発達段階別指導のポイント

小

得意・不得意、好きなこと・嫌いなことを知る（文字を書くことが苦手な場合は、写真やイラスト等を切り貼りして台紙に貼ってもOK）自分が辛くなってしまう状況を知る

中

自分が辛くなってしまう状況を周囲に伝えて、環境の調整をお願いする  
好きなこと・得意なことを伸ばしていきたいという意欲を持つ

高

イヤホンなど工夫をすれば改善できることがあることも知る  
得意分野で就労につながると思えるスキルを伸ばす



## 地域との連携のポイント

放課後等デイサービスに新しく通うことになった子どもが来所した際は、子ども同士の自己紹介だけではなく、施設に出入りする地域サークルや学生ボランティアの人たちにもぜひ自己紹介してもらいましょう。

また、出入りする人たちには、常日ごろから自己紹介カードを準備しておいてもらうとよいでしょう。新しく入って来た子どもも、初めから地域の人に親しみを持ちやすくなることでしょう。



## 「休日・長期休暇」でのキャリア教育の実践例②

### おやつ作り

職員と一緒にクッキー作りや、ケーキ作りなど、おやつ作りを楽しむ時間を設けている放課後等デイサービスは多くあります。

こうしたおやつ作りの活動は、皆で役割分担して一つのものを作り上げる協働体験ができるほか、買い物や調理、清潔など幅広い学習を楽しみつつ行うことができます。

#### 📌 キャリア教育のための工夫例

##### メニュー決め

- インターネットや本で調べたメニューについてメモをとっておき、それをもとに話し合う  
また、材料を購入する店や、作る際の役割分担なども話し合いで決め、メモをとっておく



話し方・聞き方

メモをとる力

##### 買い物

- メモをもって買い出しに行き、予算内で買い物をして支払う経験をする



金銭管理

##### 料理

- 仲間と一緒に作業する中で「キッチリ量らないと気が済まない」「卵をうまく割れない」「成型がとてもきれいにできる」「使用した道具をピカピカにすると気分がよかった」等の作業遂行に関する自分の特徴を知る



得意なこと・不得意なこと

特性理解

- 火の始末や包丁など刃物の使い方、扱い方に気をつけることや、作業の前には必ず手を洗う、テーブルを拭くなど食べる人を思いやり、清潔にも気を配ることの大切さを知る



清潔・身だしなみ

## ワンポイントアドバイス

複数の仲間と一緒に作業することが難しい子どもの場合、大人と二人で作業してみることから始め、その子が興味を持った段階で、自然に仲間に加わっていきるとよいでしょう。

直接作業にかかわらなくても、「一人分ずつ袋詰めして留め具をする」「テーブルを拭く」「お茶をこぼさないようにカップに注ぐ」「お茶とおやつを配る」といった作業も大切な活動です。

なお、「クッキー作りをしよう」と誘っても乗ってこない子どもには、「クッキーで電車や好きなキャラクターを作ってみよう」と誘い方を変えると参加がしやすくなるかもしれません。また、ポップコーンやベッコウ飴など、作りやすいものからチャレンジしたり、ミニ農園を持っている場合は、その食材を取り入れたりすることも有効です。



## 発達段階別指導のポイント

小

一つのものを作り上げるまでに様々な作業があることを体験し、できなかった部分を手伝ってもらいながらも完成を目指して、自分が役に立った経験を得る

中

インターネットで調べたレシピをメモし、作業の全体の流れの説明をしっかり聞いて把握する  
作業に手間取っている年少者のサポートを行う

高

イベント時の特別なおやつなどのメニューを予算に合わせて考える  
作業手順を調べ、買い出しからリーダーとして行動する作業手順を仲間に口頭や文章で説明する



## 地域との連携のポイント



子ども食堂の運営に関わっている管理栄養士、保健師、地域の人たち、あるいは、ケーキ屋さんやパン屋さんと呼べると最高です。また、食物栄養科で勉強する大学生に来てもらってもいいかもしれません。一緒にレシピを考え、紙にまとめ、食材を買いに行き、一緒に分担して作る、というプロセスを経験するのは、楽しい時間になるでしょう。まずは自分たちで何を作って食べたいか、会話することを楽しみましょう。

サポートしてくださる地域の人には、「比較的短い時間で作れるもの」「簡単に作れるもの」「材料が安価なもの」などの視点で、レシピ検討に寄り添ってもらおうとともに、実際の買い物や調理にもじっくり関わっていただけるといいでしょう。

## 「休日・長期休暇」でのキャリア教育の実践例③

### 職場見学・職場体験への参加

職場見学や職場体験・就業体験などは、キャリアについて実体験を通して分かりやすく学べる重要な機会になります。

#### 📌 キャリア教育のための工夫例

##### 職場見学をする（できれば親子で）

- 身近なお店や会社を見学して、そこで働く人の話を聞いて、メモをとる



働くことの必要性・意義

職業人の生活像

挨拶

言葉づかい

話し方・聞き方

メモをとる力

##### 働く先輩の話を聞く（できれば親子で）

- 働いている障害のある先輩をゲストに呼んで、仕事の内容や働き方、金銭管理、休日の過ごし方などを話してもらい、大切なポイントについてメモをとる



働くことの必要性・意義

職業人の生活像

メモをとる力

障害理解

無理のない働き方

金銭管理

余暇<気分転換>

##### 職場体験・就業体験をする

- 職場で簡単な仕事体験（挨拶・仕事内容を聞いてメモをとる・分からないことを聞く・お昼休みの過ごし方）をさせてもらい、仕事について理解を深めたり、仕事上での自分の得意・不得意を理解したりする



職業人の生活像

挨拶

言葉づかい

話し方・聞き方

メモをとる力

得意なこと・不得意なこと

質問力

- アルバイトに応募し、就職面接や履歴書の作成にチャレンジする。アルバイトを通し、仕事について現実的な理解を深めたり、自分の特性が仕事上どのように影響するか、自分ができるような仕事、自分にとって無理のない働き方について理解を深めたりする



職業人の生活像

得意なこと・不得意なこと

特性理解

障害理解

現実的な職業選択

無理のない働き方

## ワンポイントアドバイス

職場見学や就業体験は、現実的に「働く」ことに向かうための入口となります。自己理解をはじめ、なぜ働くのか？働くために何が必要なのか？などの理解を深めるための一歩になります。

従って、この時まで基礎となる生活リズムを整えることやマナーなどを学ぶことが大切です。

小さい時から日常生活の中で身に付けることができる社会性や様々な体験は、やがてその人の財産となって輝き続けることでしょう。



## 発達段階別指導のポイント

小

身近で働く人々の話を聞くことで、働くことへの興味関心を高める

中

働いている先輩の身近な話を聞くことで、あこがれを持ち働くことへの意欲を高める

高

職業選択について、体験を通して、仕事への興味・関心を、現実的な仕事理解へと深めていく  
働く準備に向けて、今まで積み重ねてきた、メモを取る力や質問する力が大切となることを実感する



## 地域との連携のポイント



職場体験を実施するうえでは、地域のケーキ屋さん、パン屋さんなど、日ごろから放課後等デイサービスに出入りしている人や、地域企業の人たちにぜひ協力してもらいたいものです。

職場体験はもちろん、それに先立つ施設内での「お仕事紹介」や「プレ体験」なども地域の人たちに大いに協力してもらいましょう。

## 「休日・長期休暇」でのキャリア教育の実践例④

### イベント活動への参加

休日や夏休みには平日では時間的にできないことを経験することができます。たとえば、地域のイベントに参加したり、電車などをつかい遠出をするイベントを実施したりすることができます。これらは、放課後等デイサービス以外の人とより深く接する貴重な機会になります。

#### 👉 キャリア教育のための工夫例

##### 地域のフリーマーケットやお祭りに参加する

- 一定額のお小遣いを持ち参加する場合は、予算の中で買いたいものを決めたり、限られた時間の中で参加したい企画を決めたりする



働くことの必要性・意義

金銭管理

時間管理

- 自分たちのブースを持たせてもらえるイベントの場合は、職員とともに自分たちでブースを企画し・運営する。またブースにお客さんとして来てくれた地域の人たちと触れ合う



働くことの必要性・意義

挨拶

話し方

言葉づかい

#### 👉 発達段階別指導のポイント

小

参加したいイベントを自分で調べ、与えられた予算の中で楽しむイベント会場の人たちなど普段関わらない人たちとの交流を楽しみながら経験する

中

イベント参加中は年少者の活動をアシストし、自分たちのブースでは自分の役割に責任をもちながら運営に参加する

高

ブースに参加する企画が決まったら、その準備に必要なものや、当日の運営の流れなど職員とともに考えていく



##### ワンポイントアドバイス

お祭りなどいつもと違う状況に子どもたちはテンションが上がりがちになります。安全な育成には職員の負担も大きいため、事前の十分な計画が重要となります。



## 👉 キャリア教育のための工夫例

### 遠足・デイキャンプに出かける

- 近隣のレクリエーション施設の中から行きたいところ、皆で楽しめそうなところを探し、目的地までのバスや電車の経路、交通費など調べる

Point → 公共交通機関の利用

- 当日を楽しむための服装や持ち物などを考え、体調を整える

Point → 身だしなみ 体調管理

## 👉 発達段階別指導のポイント

小

遠足で行きたいところを自分で調べ、目的地の候補を挙げる

中

遠足の目的地までのルートを検索し、所要時間や料金、レクリエーション施設等の概要を調べる

高

遠足の目的地までの所要時間を考えて、妥当な集合時間や解散時間を設定したり、当日のタイムスケジュールを組み立てたりする



### ワンポイントアドバイス

送迎のある学校や放課後等デイサービスに通い、また、家庭でも車移動が中心の生活を送っていると、バスや電車に乗る機会がありません。このような子どもの場合、卒業後にせつかく就職が決まっても、電車に乗れず通勤を断念したという例もあります。

そのため、公共交通機関を利用する機会があるとよいでしょう。「車内のマナー」「遅延などが発生した場合の対応」の経験も積むことができます。



## 👉 地域との連携のポイント

長期休暇を活用して、遠出したり地域イベントへの出店を実行しようとした場合、やはり力となるのは地域の人たちの温かい目です。日ごろから地域の人たちと子どもたちとの信頼関係を築いておけば、出入りする地域の人たちも、遠出やイベント出店を支えてくれることにつながるでしょう。



## キャリア教育の実践をサポートしてくれる「地域資源」

ここでは、放課後等デイサービスと地域との連携について考えていきます。

子どもたちの将来の就労に役立つ経験は、さまざまな場面から得られます。家庭での親子の会話、学校の先生や友だちとのかかわり、そして放課後等デイサービスでの毎日の暮らしなど、多様な場面で多様な人たちとのかかわりながら、自然と育んでいけるとすばらしいですね。

そうした意味では、地域にいる多様な人たちの存在は、連携を持つことができれば強力な仲間となる可能性を秘めています。さまざまな経験をもつ人たちが、あなたの施設の近くにもたくさんいるに違いありません。

ではさっそく、地域との連携をどう築いていったらよいのか、ヒントになりそうなことをまとめてみましたので、見ていきましょう。

### 日常場面で

学校に通う平日は、放課後等デイサービスに来る子どもたちにとって日常の大きなヒトコマですね。そんな平日こそ、過ごし方を少し工夫するだけで長い期間のうちに何かを身につけられる可能性があるのではないのでしょうか？

ここは、職員だけで頑張らずに地域の魅力的な人たちとコラボしましょう。たとえば、こんな人たちと連携してはいかがでしょうか？

#### ①シニア世代の地域サークル

■DIY（工作等）、折り紙、お手玉、絵本の読み聞かせ、将棋、囲碁など、地域のシニアたちのサークルメンバーを呼んで、一人ひとり異なる子どもたちの関心事とマッチング！一緒に遊んでみてはいかがでしょうか？



#### ②大学のボランティアサークル

■大学によっては、ボランティアサークルがあったり、学生にボランティア活動を紹介するボランティアセンターを設置しているケースもあります。そうしたところに集まる大学生に声をかけてあなたの施設へ来てもらい、子どもたちと遊戯やゲームと一緒に遊んだり、楽しくおしゃべりしたり、パソコンの操作を教えてもらったりなどできるといいですね。



### ③地域のお店・企業・NPO

日ごろ、施設の中でおやつ作りを行うことは結構あるでしょう。その見守りも、施設の職員だけではなく、**地域のパン屋さん、ケーキ屋さん、子ども食堂の関係者**などに手伝ってもらおうと、特別感が生まれるのではないのでしょうか？「今日はあの角のパン屋さん」、来週は「駅の近くのケーキ屋さん」……。そんなふうに、身近なお店の人たちから美味しくキレイなおやつ作りを教えてもらえたら、将来のあこがれの職業になるかもしれませんね。



## 特別なイベントの中で

学校がお休みのときは、遊び心のある時間を過ごしてみましょ。休日の「地域」には、現役でお仕事をしている人も自宅でくつろいだり、趣味や地域活動にいそしんだり、まさに地域の人との出会いの可能性が高まる時です。

子どもたちとともに、地域への扉を開いてみてはいかがでしょうか？

### ①地域の市民活動コミュニティ

■たとえば、子どもたちと地域の**フリーマーケット**や**市民祭り**に出店してみてもいいでしょうか？自宅から小さなころの衣類やおもちゃなどを持ち寄って、お店を構えてみましょう。そして、商品をどんなふうにディスプレイしたらきれいか、いくらで販売したらよいかなどを話し合ったり、お客さんへの商品紹介、お金のやり取りの方法などを練習したりしてみましょ。

### ②青少年対策委員会などの見守り組織

■参加しやすい地域イベントとしての代表格は、**地域清掃**です。時期が来ると、街の掲示板にお知らせが貼ってあるかもしれません。中学校の学区単位などで結成されている青少年対策委員会などが主催していることが多く、幼児から小学生、中学生、そしてシニア世代まで、たくさんの方が集まって一斉にゴミ拾いを楽しめます。清掃活動を通して自分のまちを皆で守るといった感情がわき、ある種のルールを守る意識の醸成にもつながることでしょう。



## 特別なイベントの中で

### ③農家さん

■住宅街であってもどこかに農地で作物を作っている人はいるものです。農地で働いている人に声をかけ、種まきや収穫のときなど、**農作業体験**を申し入れてみてはいかがでしょうか？お店で売っている野菜を実際に作ることにしかかわることは、子どもたちにとって、身近な仕事に興味をもったり、食べ物を大切にすることを学ぶよい機会となるでしょう。



### ④市役所などに登録している「子育て応援企業」

■地域によっては、市役所などが地域の企業や商店の人たちに呼びかけて「子育て応援企業」を募っていることもあります。小中学生の**職場見学**を受け入れていたり、学校などに出向いて仕事の話を出張授業の形でしてくれたり、**職場体験・就業体験**の機会を提供してくれるケースもあります。活用すれば、子どもたちにとって貴重な体験となることでしょう。



### 連携にあたり大切なこと



地域のどのような人たちに就労支援につながる活動に協力いただくにしても、最低限のマナーは必要です。以下のことには留意しておきたいものです。

#### ■過度な期待をしない

地域の方はボランティアでかかわってくださいます。過度な期待はせず、その多様性を楽しみましょう。

#### ■いわゆる「業者扱い」をしない

たとえ金銭を支払っていたとしても、地域の大切な仲間です。金銭だけのドライな関係とならないよう、温かいつながりを目指せるとよいでしょう。

#### ■継続的なよい関係作り

放課後等デイサービスの子どもたちだけにメリットがある形よりも、支援に来てくれた人やそれをつないでくれた人のメリットにもなると、継続的なよい関係ができることでしょう。かかわってくださった人への感謝の気持ちは大切です。お礼の手紙を書くのもいいでしょう。

## コラム①

# 自己肯定感を高めるキャリア教育の重要性

新堀 和子

NPO 法人 Wing PRO は、発達障害のある人のキャリア教育、自立等への理解・啓発等の活動を行う法人です。東京のLD等発達障害児・者親の会「けやき」が自主グループとして8年間実施してきたキャリア教育の活動を土台とし、親の会の有志が集まり設立しました。

こうした活動のきっかけとなったのは、わが子の将来を案じた親の声です。いじめ、学力不振など、学校生活の中で自己肯定感を失いやすい発達障害のあるわが子に「夢を持ち、希望を抱いて社会に踏み出してほしい」という親の願いに応える活動を、教育や就労支援の専門家の力を借りつつ追求してきました。

これまでの活動を振り返ると、子どもたちは、キャリア教育を通じて、仕事について、また、自分自身について、少しずつ現実的な理解を深めていきました。そして、次第に、将来を見据えた心構えや自分自身の働き方の抱負を述べるようになりました。このような現実的、肯定的な自己理解は、子どもたちが社会に出て、自らよりよく生きていくための選択・決定を行う上で、とても重要なものとなります。私たちは、生涯にわたり社会や自分と向き合い、自己理解を深め続けていく必要がありますが、教育段階での自己肯定感はその礎になるものであると考えます。

発達障害のある子どもを持つ親は不安や心配のあまり、わが子に対して過保護となり、つい口出しをしすぎてしまったり、チャレンジの機会を奪ってしまったりすることがあります。しかし、キャリア教育を通してわが子の成長を感じることで、次第に、わが子のチャレンジを、一歩引いて見守ることができるようになっていきます。キャリア教育は本人支援のみならず、家族支援にもつながる大切な取組といえるでしょう。



平成 年 月 日

自己ピーアール

【氏名年齢】 \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ 歳)

【職 業】 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

私の得意なこと
●
●
●
●

私の特性と対処方法
● ( _____ ) なので、( _____ ) です。 ⇒ ( _____ ) で対処しています。
● ( _____ ) などのことがあります。 ⇒ ( _____ ) して頂けると自分で作業できます。
● ( _____ ) の場面では ( _____ ) してしまうことがあります。 ⇒ ( _____ ) をお願いできると助かります。

### 参考

「親の企画運営するキャリア教育」  
↳「Wing（親の会けやき）の挑戦」より抜粋  
(2011年LD等発達障害児・者親の会「けやき」より発行)

「はじめに」の部分で、本冊子の内容は、家庭教育の中でも応用していただけることを述べました。ここでは、家庭の中での「お手伝い」に焦点をあて、具体例をご説明いたします。

学齢期前から取り組めることとして、「食事の準備」があります。人数分のお箸を出すことから始まり、献立にあった取り皿を選びそろえること、調味料を用意すること、最終的には、食事をする家族の状況や好みを考えながら食事の準備をすること（例：お婆ちゃんには持ちやすい取り皿を用意する、目玉焼きの場合はお父さんにはソース、お母さんには醤油を用意する）を段階的に任せていきます。調子が優れないときに、役割を代わってほしいことを家族に伝えることも、大事な学びです。このように食事の準備一つとっても、毎日意識して取り組むことで、「働くことの必要性」や「他者の気持ちの理解」「相談力」など、就労・自立に向けて必要な力を育てていくことができます。

中学・高校では「お手伝い」から「家族としての重要な役割の分担」という考え方に变化させていきます。このときにポイントとなるのが、「家族が苦手なこと・困っていること」の中から、「本人が負担なくできること」を探し、お願いするという発想です。ある家庭のお母さんは、自分が苦手としていた「お父さんのワイシャツをクリーニングに出す」という仕事を子どもに分担してもらうことにしました。その際、子どもには、ワイシャツがなければ父親は仕事に行けないこと、そのため、これは家庭の経済に影響を及ぼす重要な仕事であることを説明しました。そして、日々、責任を持って役割を遂行する子どもに心から感謝の気持ちを述べるようにしました。このような体験を通して、子どもたちは、自分の力を活かして仕事をし、社会に貢献することの重要性を学んでいくのです。

発達障害のある人は「体験を通して学ぶ」といいます。日常生活を通じた着実な学びは、何事にも勝るものとなります。最後に、家庭教育の参考として、東京の発達障害の親の会の有志が10年以上にわたる協議を重ねて取りまとめた「自立生活サポートチェック表」をご紹介します。家庭教育の内容を考えていく際のヒントにいただければ幸いです。



目次

はじめに 一改訂版作成に当たって	1
目次	3
自立生活サポートチェック表-目的と利用の仕方について	4
「やっていること」と「できること」の違いを理解しよう	5
食生活	7
衣生活	13
住生活	19
身だしなみ	25
移動	31
生活一般	37
付き合い	45
健康と性	53
危機管理	59
職業生活	65
情報と通信	73
スポーツと娯楽・趣味	81
生きがい	87
調整能力	93
付録・個別プログラム	97
困ったときの相談場所	103
まとめにかえて	106
あとがき	107

参考

「自立生活サポートチェック表」ひとりぐらしを応援する  
 / 生活のためのレシピを作ろう改訂版」より抜粋  
 (2017年 東京LD親の会連絡会・自立生活研究会より発行)

# おわりに

子どもは、あっという間に大人になり、やがて社会の新たな担い手となっていきます。一人ひとりが経験から身につけた「心」の配り方や「頭」の使い方、そして「行動」が、社会の雰囲気や文化をつくっていきます。だから私たち大人は子どもたちの手本になっていくことが望ましいですし、子どもたちの成長の過程に自分たちの思いを載せ、寄り添い、教えていく必要があるのだと思います。

発達に障害のある子どもたちに「まなざし」を送りつづけていくことは、多様なものごとを自身の中で認めていける能力を成長させることでもあります。そして、そうした「まなざし」を受けとめながら育った子どもたちには、自身の特性にしっかりと価値を感じ取ることができる可能性と、他者の多様性を大切に思える可能性を芽生えさせるに違いありません。

この冊子は、発達障害のある子どもの成長にかかわる人たちが持つ「まなざし」に、キャリア教育や地域連携といった新たな補助線を提案したいと考えてまとめました。どうか補助線のずっと先には、大人になった子どもたちの自然な笑顔がたくさん咲いていますように……。

フューチャーセンター虹の会（八王子） 野牧 宏治

## ～これまでの活動の流れ～

2017

### プレ調査・勉強会

7/23-8/22

放課後等デイサービス  
5か所 訪問調査

7/15、22

障害者就労に関する勉強会  
(講師：障害者職業センター/  
障害者職業カウンセラー/  
特別支援学校の進路指導  
担当教員)



### ワークショップ

7/2、8/6

「Wing PRO」「虹の会」の  
協働により、キャリア教育  
プログラムを検討



### 中間発表

11/10

「職業リハビリテーション  
研究・実践発表会」で  
ポスター発表

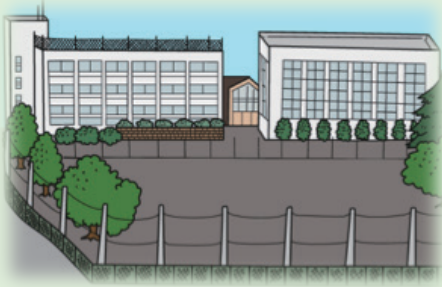


2018

冊子の取りまとめ



# キャリア教育の実施に向け、どうすれば地域の人とつながれるのか？



## 地域のイベントへ出かけて 地域の人とつながる

「サタデースクール」「学校公開日」  
「市民活動フェスティバル」「地域清掃」  
に行ってみる

## 地域での人脈が豊富な人とつながって 地域の人を紹介してもらう

「学校コーディネーター」  
「地域コーディネーター」「青年会議所」  
「子育て応援企業」の人に出会う  
「市民活動支援センター」に行ってみる



## 放課後等デイサービスにおけるキャリア教育プログラムの推進

2018年3月発行



### ● 監修・編集

榎本 容子・清野 絵

### ● 著者 (五十音順)

榎本 容子 (就労困難者のキャリア心理学研究会〔注〕)

大蔵 佐智子 (NPO法人 Wing PRO)

清野 絵 (就労困難者のキャリア心理学研究会)

新堀 和子 (NPO法人 Wing PRO)

野牧 宏治 (フューチャーセンター虹の会)

### ● 協力

フューチャーセンター虹の会

### ● 挿絵

谷川 美子 (イラスト)・株式会社 キューピーあい (デジタル化)



〔注〕「就労困難者のキャリア心理学研究会」は、福祉、教育、就労の各ナショナルセンターに所属する若手研究者が立ち上げた研究会

\*この冊子は日本財団助成金事業で作成しました。

\*本資料の著作権はNPO法人Wing PROに帰属します。